

令和５年度 地域ケア推進会議 議事要録

日 時：令和６年３月２５日（月）１４：００～１６：００

場 所：社会福祉センター 地下会議室

出席者：志津北部地域包括支援センター 加藤

志津南部地域包括支援センター 中村、田中

臼井・千代田地域包括支援センター 鈴木、大内、山賀

佐倉地域包括支援センター 鯉淵、下原、戸嶋

南部地域包括支援センター 森、尾形

佐倉市都市計画課 交通対策班（オブザーバー） 梅澤、金子

事務局：佐倉市高齢者福祉課 滋野、開出、松本、岩本、石井、田中

発言者	内容
○事務局	（開会） これより令和６年度佐倉市地域ケア推進会議を開催する。
○高齢者福祉課長	（課長挨拶） （名簿順に自己紹介及び挨拶）
○事務局	なお本日の会議には交通関係の担当部署である都市計画課の担当者もオブザーバーとして参加する。 また本日の会議の内容は後日ホームページにて要録を掲載する。 （議題３ 佐倉市の地域ケア会議事業について）
○高齢者福祉課	資料２「佐倉市の地域ケア会議について」に沿って、地域ケア会議事業の概要を説明。 本日の地域ケア推進会議では、「移動に関する課題」について、特に、「医療機関の受診に関連する移動の課題や具体的事例」を取り上げ、各圏域で挙げられた課題、解決策、またはすでに地域で取り組んでいる事例などについて情報共有を図ることを会議の目的とする。 そのうえで市全体における共通課題、優先度の高い課題を共有し検討するため、活発な意見交換をお願いしたい。 （議題４ 「医療受診の場面における移動困難・移動支援について」 各圏域の現状と解決策案の報告）

発言者	内容
○事務局	今年度までに各圏域で開催された地域ケア圏域推進会議において把握・検討された、移動に関する圏域ごとの課題について、資料３に沿って報告願う。
○志津北部地域 包括支援センター	○志津北部圏域（資料の補足のみ記載、以下同じ） ・ 診察や薬の受取の待機時間など近いところでも半日ほど時間がかかる。タクシーを待たせておくのは現実的でない。近くに頼れる家族のいない方が困っている。 ・ 有償ボランティア等のすぐに使える仕組みがあると良いが、本人が受診の目的や受診先を見直すことも併せて必要では。
○志津南部地域 包括支援センター	○志津南部圏域 ・ 地域のなかで病院が偏在しており、遠い地域からのアクセス悪い。コミュニティバスが通ったが停留所変更により使い勝手悪くなった。 ・ 一緒に行ってくれたり、付き添いサービスがあると良い。
○臼井・千代田 地域包括支援センター	○臼井・千代田圏域 ・ 坂道の多い地域では歩行器などが使いにくく外出しにくい。コミュニティバスは地域の中心を通らないため遠回りになる。 ・ 医療機関や薬局から圏域内の駅まで独自の無料送迎バスや乗合タクシーがある。 ・ 圏域推進会議からの提案で、薬局前にベンチを置き休憩所を作ったことで、通院の負担軽減につながった事例あり。
○佐倉地域 包括支援センター	○佐倉圏域 ・ 医療機関はあっても、本人の行きたいところに行けない（バスが通っていない、通っていても本数が少ない、介助者の時間が合わない） ・ 佐倉警察主催の高齢ドライバーに対する講座は少人数でも開催可。地域で開催してはどうか。
○南部地域 包括支援センター	○南部圏域 ・ 地域全体の高齢化が進み近所の助け合いが機能しない。 ・ 路線バスの本数少なく通院の時間と合わない。 ・ コミュニティバスの活用を促すため、見やすい時刻表をつくったり利用体験会を開催してはどうか。 ・ 地域のサロンがコロナ以降中断されているので再開したい。

発言者	内容
○事務局	各圏域とも時間のない中での対応に感謝申し上げる。 先の報告について、質問はあるか。
○志津北部地域 包括支援センター	臼井・千代田圏域の報告にあった、薬局のベンチはどのような経緯で置かれたものか。
○臼井・千代田 地域包括支援センター	圏域推進会議の中で話が出て、その後薬局側が好意で設置してくれた。以前からコロナ禍の際にソーシャルディスタンスを保てるよう、外にベンチを置いてある薬局もあった。
○臼井・千代田 地域包括支援センター	南部圏域の報告にあった、コミュニティバスの利用体験会についてはどのような経緯で話が出たものか。
○南部地域 包括支援センター	圏域で開催しているコミュニティバスに関する話し合いの中で、コミュニティバスを利用したことがないとの声が多いことから体験会の案が出たもの。コロナ禍もあり実現できていない。
	(その他質問なし)
○事務局	質問は以上とし、意見やアイデアについては休憩後に討議する。 休憩（10分） 会議再開・意見交換
○事務局	前半で出た課題、圏域会議の提案について、質問や意見はあるか。
○A氏	圏域会議では、タクシー利用について近距離だと嫌な顔をされる、呼んでも空きがないといった理由で選択肢に入らないとの意見があった。
○B氏	駅まで出られるルートがない。バス停から遠い人の手助けが必要。
○C氏	ケアマネジャーにコミュニティバスを知らないと言われたことがある。広く周知を図ってほしい。
○都市計画課	対応する。

発言者	内容
OD 氏	高齢者自身の身体の問題も大きい。坂道の多い地域や交通の不便な地域では歩けなくなることは近くのバス停まで歩いて行けていた方が行かなくなると途端に外出しなくなる事例が多い。
○高齢者福祉課	アプローチで変わる余地があるなら理学療法士が関与できる。該当のケースがあればいつでも相談してほしい。
OE 氏	なじみの病院に通いたい、車でないと行けないためどうしたら良いか？という相談があった。通院先の病院は5か所あるとのことだったが、近場の病院に変えてもらう、という選択もある程度必要であると感じた。早めに考えてもらう、助言をしていくことが必要。
OE 氏	通院が困難で困っているのは「通院加療が必要で行きたいのに行けない」という人。重度化する恐れもある。行きたくない人は中断してしまい本人は困っていない。
OF 氏	本当に通院が必要な方ほど通院ができていない状況もある。 一体的実施事業での成果はどうであったか？
○高齢者福祉課	医療・介護につながらない方は行きたくない、行くための力がない、必要性の判断ができない方が多い。
OG 氏	一体的実施事業から紹介されたケースで重度化防止につながった方もいた。
OH 氏	地域の病院でマイクロバスを運行していた病院が、運行をやめてしまったため地域でも通えなくなってしまったという声がある。
高齢者福祉課	病院としては通えなくなってしまった人がいるということを把握しているか。
OI 氏	把握しており、独自に送迎を行っている医療機関もある。圏域会議でも医療機関からの意見として、歩くのがやっとという患者さんが自家用車を運転してくるため危険とを感じるが、介入できないとの話が挙げられた。主治医から免許返納について促してもらうもまだ大丈夫と断ってしまうので困っているとのことであった。

発言者	内容
○J 氏	訪問看護の利用や、オンライン診療などの手段も検討必要では。
○K 氏	薬局によっては病院から F A X で処方箋が送られるため待ち時間の短縮が図られている。
○L 氏	近所の人の手助けは通院（送迎）、院内付き添いと分けてはどうか。それぞれ対応者がいれば通院が可能になる場合もあるのでは。付き添い支援サービス、院内サポーター等の仕組みを地域で導入できないか。
○M 氏	地域全体の高齢化もあり、そもそも住民の力で送迎を行うのは難しいのではないかと。事業者の利用状況はいかがか。
○高齢者福祉課	令和 4 年度の実績としては、シルバー人材センターが実施している福祉有償運送サービス（レインボーシャトル）の実利用者数が 80 人、社会福祉協議会が運営している移動サービスの実利用者数は 40 人。市としても引き続き経費の補助という形でバックアップしていきたい。
○N 氏	事業者のサービスはいずれも予約制。急なときはタクシー、近所の人を頼る場合が多い。（各圏域とも同様との意見あり）
○O 氏	将来的にライドシェアの導入も検討してみてもは。
○事務局	時間となったため意見交換を終了する。 都市計画課から何か意見等あるか。
○都市計画課	このような機会をいただき感謝。コミュニティバスが利用しにくい地域があることや、ライドシェアなど新しいサービスの可能性についても良い意見を伺えた。今後も庁内で連携し検討をすすめていく。
○事務局	本日は貴重な意見をいただき感謝する。 地域ケア会議の本来の目的は、住民の困りごとに対し住民同士助け合い、その人が望む限りそのまちで暮らせるための話し合い。一度の会議で解決できるものではなく、引き続き移動の問題について、都市計画課をはじめ市の各部署と連携し取り組みを進めていく。地域包括支援センターの協力を引き続きお願いしたい。 これで令和 5 年度 地域ケア推進会議を終了する。お疲れ様でした。